



## 敬愛するエリシユカさんに感謝！

10月27日、28日の両日、エリシユカさん最後の来日公演となった第604回札幌交響楽団定期演奏会を神戸から聴きにきました。「これ以上は日本への長旅に耐えられない」として、最後の来日公演となる！」と聞いた時は大変ショックでした。高齢でもあり体調はどうなのか、元気な姿で札幌を指揮してもらえるのか不安でした。10月22日、大阪フィルの演奏会にも行きましたが、一番前の席で精気溢れるエリシユカさんの姿を拝見して、正直ホツとしました。

札幌との演奏会をエリシユカさんが特別な想いで指揮された事は、容易に想像できません。札幌とは互いに信頼と愛情で結ばれ、最後の演奏会も歴史に残る渾身の名演で締めくくってくれました。2009年のインタビューでお話しされた「オーケストラを育てる、それこそが指揮者の使命」という言葉が今更ながら心に刺さり、今までの想い出が脳裏に浮かび、これでもう会えないんだと思うと涙が止まりませんでした。初めて札幌を指揮されたのは2006年12月でしたが、その時の「シエラザード」の感動は衝撃的でした。私も「この指揮者は誰なの？」と思いつつ両日聴き、二日目

は満席となったホールで更に酔いしれた記憶、これがエリシユカさんとの出会いでした。

2008年4月、第508回定期演奏会で再会出来た時の喜びは格別のものでした。前回の演奏会の大反響によりエリシユカさんが首席

客演指揮者に就任する公演となり、札幌の飛躍を予感させる嬉しいものでした。この時も両日拝聴しまし



札幌を離れるエリシユカご夫妻  
2017年10月30日 パークホテルにて

オベーションのようになりました。この光景は今までに見た事のない感動的な情景でした。その演奏会の後に行なわれた就任記者会見に私も出席させていただきました。貴重なお話を間近で拝聴、録音し、すぐに起稿しました。

2009年4月には、第518回定期演奏会を前にした芸森アートのホールでの練習後にインタビュー

をさせていたたく機会を得ました。約1時間貴重なお話をユーモラスに熱く語っていただき、人間味溢れる人柄と仲むつまじいご夫婦にあらためて惚れこんでしまいました。エリシユカご夫妻の写真も撮らせていただきましたが、フォトフレームに入れて演奏会終了後楽屋でお渡ししたところ、特に奥様には金婚式を迎えた記念になると大変喜んで

いただきました。この時にいただいたエリシユカさんのサイン色紙は私の一生の宝物です。

その後、エリシユカさんが指揮をする演奏会ではどんな感動が味わえるのかわくわくし、実際札幌の演奏はいつも熱く、ドヴォルジャークの「新世界より」は何度も聴いている曲なのに泣けてしまったことなど、良い意味で期待を裏切ってくれました。チェコ音楽の真髄を数々披露されたのはもとより、その他の作品に息吹を送り込んだ演奏は、いずれを思い返しても心が躍る名演の連続でした。そして札幌メンバリーや聴衆への感謝の姿勢は毎回心を打つ光景でした。

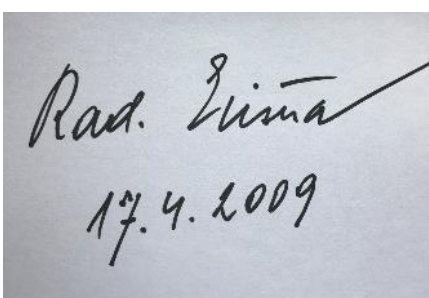
2011年3月、東日本大震災に見舞われたとき、私は仙台空港の近くに住んでいました。ライフラインを断たれ、放射能汚染の恐怖もあって精神的に疲弊していた時の唯一の救いは、毎月大好きな札幌の皆さんに会って素敵な演奏を聴く事でした。忘れられないのは、風評被害もあって来日をキャンセルするアーティストが多い中、4月の定期にはエリシユカさんは臆する事無く予定通り来日されました。その時のスターバート・マーテルの曲は悲しみと鎮魂の特別な想いが痛いほど伝わる演奏・合唱で、精神的に癒され、感謝の気持ちで一杯でした。

エリシユカさんとの11年間の濃密な関係で、札幌は素晴らしい楽団

に成長したと実感しています。エリシユカさんの偉大なる足跡と功績は計り知れないと思っています。

帰国する前の10月30日、エリシユカさんに「札幌くらぶ」としてご挨拶をすることができました。エリシユカご夫妻と何度も握手をし、感謝の気持ちを伝える事が出来たことは私にとってこの上ない喜びでした。相当お疲れで足元がおぼつかない様子でしたが、札幌とそして日本を離れるのがとても寂しそうにも見えました。恩返しのためにも札幌がチェコで共演する機会がある事を切に願っています。私の人生で最も敬愛する方はラドミル・エリシユカ氏であり、ご夫妻は理想像でもあります。これからも健康に留意されて、更に実りある人生を歩んでいただきたいと思えます。本当にご苦勞様、そして数々の名演と感動をありがとうございました！

会員／深井雅昭



エリシユカさんのサイン

2月〜4月定期演奏会 名曲シリーズ

## 演奏会を楽しく聴くために

八木幸三（札幌くらぶ顧問）

## 第607回定期演奏会

2月23日（金） 19:00

2月24日（土） 14:00

指揮 尾高忠明

クラリネット 三瓶佳紀

ヴァイオリン 塩崎アレックス

語り 中井貴恵

## ■武満 徹

## 「乱」組曲

黒澤明監督が映画「乱」の音楽を武満に依頼したとき「マーラーの交響曲第一番」のイメージを提示したという。しかし、武満は、あくまで自分の音楽を貫いた。演奏を札幌に担わせ、千歳でおこなわれた録音では、当初いぶかっていた黒澤を大満足させた。武満が「男らしさのある黒澤映画には、ティンパニが不可欠」と言ったとおり、ティンパニがこの曲に重要な役割を果たしている。

## 「ファンタズマン・カントス」

「ファンタズマン・カントス」は、「ノヴェンヴァー・ステップス」が独奏楽器の琵琶・尺八とオーケストラの厳しい対峙に対して、独奏楽器であるクラリネットがオーケストラと見事に融合した協奏曲となっ

ている。作曲者は、この作品について「日本の回遊式庭園の眺めからヒントを得ている。小道に沿って、あちこちで立ち止まりながら瞑想に耽りつつ歩いているうちに、出発した場所に戻っている。しかし、そこは決して出発点とは同じではない。」と述べている。オーケストラ

## 「遠い呼び声の彼方へ!」

「遠い呼び声の彼方へ!」という題名は、作曲者が好んだジェイムズ・ジョイスの小説「フィネガンズ・ウェイク」から借りたもの。ジョイスの文章は、水のイメージに満ちた「夢の言葉」として捉えられている。タイトルは小説に登場するアナ・リヴィアが、海に流れ込むリヴィアのの流れが、蛇行し、成長し、

やがては「海なるハ長調」へと到達するという暗喩を表している。オーケストラがヴァイオリン独奏の運び手となり、独奏はオーケストラの上に浮かび上がるかと思えば、その中に沈み込むように奏でられる。

## 「弦楽のためのレクイエム」

「弦楽のためのレクイエム」は、武満の出世作となった名曲だ。彼の作品は当初、山根銀二などの批評家から音楽以前という評価を受けていた。この作品を書いていた頃、武満は病に伏せており、正に死を覚悟しながらの作曲であった。初演も芳しい評価を得なかったのだが、来日中のストラヴィンスキーがこの曲を耳にし、絶賛したことから評価が一転し、武満徹の名は一躍世界に知られることとなった。なお、この曲は武満が尊敬していた作曲家早坂文雄に献呈されている。

## 「系図」

## 若い人たちのための音楽詩

武満作品は難しい現代音楽のイメージが強いが、メロディーメーカーとして実に美しい音楽も書いている。管弦楽と朗読による「系図」と

若い人たちのための音楽詩」は、その一つだろう。ニューヨークフィルの創立150周年のために委嘱され、谷川俊太郎の詩をテキストに音楽が付けられた。ノスタルジックで幻想的な谷川の詩が、武満のやさしくあたたかな響きで効果的に浮かび上がる。アコーディオンも活躍するこの曲を聴くと昭和の懐かしい家族の一場面を見ているような感覚になることだろう。

## 第608回定期演奏会

4月27日（金） 19:00

4月28日（土） 14:00

指揮 マティアス・パーメルト

## ■モーツァルト

## 交響曲第29番イ長調

1773年から翌年にかけて18歳のモーツァルトは、9曲の交響曲を書き上げた。そのうちの5曲までがイタリア風序曲の形式で作曲されているのに対し、残りの4曲はウィーン風の4楽章の構成がとられている。この

が10代で作曲した交響曲中、第2番とこの第29番はとりわけ人気が高い。オーボエ2、ホルン2、それに弦楽だけという、ほとんど室内合奏曲の編成で、全体がとても落ち着いたきのある典雅な趣で覆われている。1774年の4月6日にザルツブルクで完成された。

## ■R・シュトラウス

## アルプス交響曲

もう40年ほど前になるが、スイスからイタリアに汽車で移動したとき、アルプス山脈の景観の雄大さに圧倒された記憶がある。この名曲は、まさにそんな景観を彷彿とさせる見事な描写音楽であり、雄大な情景が聴き手の脳裏に浮かぶ傑作だ。そして、この作品は山登りの人々の体験談とも言えるストーリー性を持っていることも特徴的。第一次世界大戦が始まったころの作品なのだが、映画音楽のような趣も感じられる。嵐を描写した特殊な打楽器をはじめ、管弦楽法の大家でもあるシュトラウスらしい濃厚なスコアも聴き所のひとつだろう。



塩崎アレックス



三瓶佳紀

©Masahide Sato



尾高忠明

©Martin Richardson



中井貴恵

第29番は社交的娯楽的要素の強いイタリア様式を脱却し、後の交響曲への確かな成熟を予感させる表現力を備えた作品である。モーツァルト



マティアス・パーメルト

## 名曲シリーズ

## 輝きと躍動のポレロ

3月10日(土) 14:00

指揮 渡邊一正  
トロンボーン 中川英二郎

## ■バーンスタイン

## 「キャンディード」序曲

レナード・バーンスタインは、作曲家として交響曲などの純音楽で多くの名曲を生み、「ウエスト・サイド物語」などミュージカル音楽でも傑作を残している。ヴォルテールの「カンディード」、あるいは楽天主義説を原作とした舞台作品に音楽をつけた「キャンディード」は1956年に初演され、作曲家自身による1989年の改訂が完全版となった。特に序曲は有名で、PMF

などで何度も演奏されている。

## ■シルクレット

## トロンボーン協奏曲

米国の作曲家ナサニエル・シルクレットは、指揮者、ピアニスト、クラリネット奏者としても活躍し、クラシック音楽やジャズの録音、さらに多数の映画音楽を手がけた。この曲も往年のハリウッド大作映画で流れるような壮大な序奏に続き、トロンボーン独奏が勇壮な響きを放ち、変化に富む楽想の流れの中で、この楽器の艶やかな高音、逞しい低音の魅力がたつぷりと味わえる。3楽章形式でジャズの雰囲気も楽しめる曲だ。

## ■ビゼー「アルルの女」組曲より

## カリヨン、パストラル、間奏曲、メヌエット、ファンタジー

「アルルの女」と題する戯曲に付随音楽を27曲書



渡邊一正 ©Storu Mitsuta



中川英二郎 ©Akira Muto

いたビゼーが、作曲家自身で選曲したものが第1組曲となり、ビゼーの友人エルネスト・ギローが選曲したもの、第2組曲となった。今回演奏される「カリヨン」は、鐘の音の模倣が巧みなオーケストレーションで奏でられ、パストラル、間奏曲に

続き「ファンタジー」は、終曲にふさわしくプロヴァンス太鼓のリズムにのせ、ファンタジー主題と行進曲風主題が交互に、最後には同時に演奏され滑走するように壮快なフィナーレをつくりあげている。

## ■ラヴェル

## ポレロ

同じリズムを何度も繰り返し聴くと人は陶酔状態におちいることがある。ロック音楽は正にこれ

## マエストロ入場です！

4月21日(土) 14:00

## 指揮とお話

## マティアス・パーメルト

## ■フチーク

## 剣士の入場

この曲を委嘱された。実際、ピンクのチュチュを身にまとった50頭のゾウたちによって踊られたという。確かに象が踊り出しそうな愛嬌のある作品だ。

## ■ハイドン

## 交響曲第82番「熊」第4楽章

この交響曲は、6曲の「バリ交響曲」中で番号は若い最後に作曲された。「熊」という名称は、後世の人が付けたもので、今回演奏される第4楽章の冒頭で低音部における、前打音つきの「ハ」の音が、熊の唸り声のように聞こえることから名付けられた。

## ■レスピーギ

## めんどり

レスピーギは、17、18世紀のクラヴサン曲を現代的に蘇らせた組曲「鳥」を作曲し、巧みなオーケストレーションによる描写音楽とした。その第3曲目である「めんどり」

は、ラモー作曲の「めんどり」が原曲。原曲も描写的だが、レスピーギの編曲によってさらに色彩的でユーモラスな感じになっている。

## ■リムスキー＝コルサコフ

## 熊蜂の飛行

この曲は歌劇「皇帝サルタン」の物語の中の劇中音楽。サルタンの妃と王子が妃の姉たちの恨みをかい、樽に入れられ海に流され魔の島に漂着する。そこで王子が成長し、熊蜂の攻撃から白鳥を救う場面で演奏され、蜂の羽音を模倣した楽想があまりにも有名な曲だ。

## ■カバレフスキー

## ギャロップ

運動会でも定番のこの曲は、ロシアの作曲家カバレフスキーが書いた組曲「道化師」の第2曲。彼は子ども達のために多くの作品を残したが、「道化師」も元来は児童劇のための付随音楽から編曲されている。

## ■グノー

## 「ファウスト」のワルツ

老学者ファウストが悪魔のメフィストフェレスに魂を売り渡し、代わりに若さと青春の日々を手に入れるオペラの第2幕で演奏されるこの曲は、リストによるピアノ編曲版でも演奏されることが多い。

## ■ブリテン

## マチネ・ミュージカル

ロッシーニの「ソワレ・ミュージカル」などを素材に用いて、ブリテン

は「ソワレ」と「マチネ」の題名を持つバレエ作品を書いた。それを演奏会用組曲に編み出したこの曲は、5曲の小曲が底抜けに明るく楽しく、午後の一時を楽しんでもらうのにはぴったりの作品。

## ■レスピーギ

## 「風変わりな店」組曲

地中海沿岸にある一軒のおもちゃ屋を舞台に、ひと組の愛し合っているカンカンダンス人形が別々の買い手に売られてしまう。他のおもちゃたちが彼らを救出するというファンタスティックなバレエ組曲。原曲はロッシーニの小品集「老年のいたずら」からとられた。

## ■ロッシーニ

## 「ウィリアム・テル」序曲

19世紀前半、イタリアオペラ界で大活躍したロッシーニは39作(含改作)のオペラを作曲し多くの名作を残したが、37歳でオペラの筆をおき、その後はグルメとしての余生をおくった。歌劇「ウィリアム・テル」は、彼の最後のオペラで「ギョーム・テル」とも呼ばれている。このオペラは音楽的、劇的構成力の面で作曲家の集大成的傑作。その序曲はシオスタコーヴィチが交響曲のモチーフに取り入れたほど有名で、「夜明け」「嵐」「静けさ」「スイス軍隊の行進曲」という4つの接続曲の形をとり、オペラの内容を十分に予知させてくれる。

楽員さんに興味津津！ ①6

## フルート副首席奏者 野津雄太さんに聞く

### ♪ 宍道湖のほとりでフルートを

島根県の松江の出身です。小学校から大学までずっと島根、さらに大学を卒業してからの9年間も島根に住んでいました。中学校は宍道湖の北にある湖北中で、その近くに出身高校もあって松江北高といえます。最近国宝になった松江城のすぐ近くです。

母親は音楽については何もしてはいませんが、ピアノを習いたが、ピアノを習いたことがありません。そのせいも、私は5歳からピアノを習い始めました。

中学校で吹奏楽部

に入部する時に、母に楽器は何にしようかと相談したところ、フルートがいいんじゃない？と言われフルートのことはよく知らないのに希望楽器をフルートにしました。そしてたら運良くフルートになったんです。楽器が決まっただけでも「野津君、ランペットは？」「ドラムは？」と顧問の先生から何回も誘われたんですが、それをうまくかわして、誘いにはのりませんでした。その先生はテノールの錦織健さんの妹さんで、フルートを専門的に学んでいたので、フルートを吹かせたから母は私にフルートを吹かせたかったんだと思います。どうやらその先生のところへ電話をして、「うちの息

子、フルートにしてみたらえませんか？」みたいなお願いをしたようです。

中学校のころはもうちょっと専門的に音楽をやりたいなあぐらいしか思っていなかったんですが、3年生で部活を引退するころにはフルートが楽しくなってきました。個性もやっつてという毎日でした。

### ♪ 三足のわらじを履いて

大学は島根大教育学部です。いわゆる音楽の先生を養成するところで、正式には「生涯学習課程音楽芸術コース」といいます。北海道で言えば、教育大学岩見沢校「芸術課程音楽コース」のようなところです。大学にはフルートの先生がいらっしゃるんですけど、ずうっと習って

人的に習いたいなあと思って顧問の先生に頼んだら、「じゃあ地元のを先生を紹介してあげる」と言ってくれました。そのころからかな？どこか音楽関係の大学に入りたいという気持ちになってきたのは。高校生の時にはフルートの個人レッスンに行くようになってしまったので、とてもゆるい感じの部活はやめてしまいました。それから家に帰ってフルートを吹いて、ピアノにさわって、進学校でしたので勉強もやっつてという毎日でした。

いろいろなコンクールを受けたりしていました。学校は非常勤でしたので、そのほかに料亭でアルバイトもして、ときには演奏もしてと、三足のわらじをずっと履いていました。この料亭は「いと賀」という和食のお店で、皇族の方や安倍首相もいらつしやうなところがある有名店です。

### ♪ 「トラ」って、なに？

「あちこちでコンクールを受けていた時に細川順三さん（元札幌・元N響フルート奏者）に会い、「君、どこの人？」って聞かれて「島根で教員をしています」って言ったら、「N響にトラで来る気ない？」と言われました。「トラ（エキストラ）」なんていう言葉は知らなかったの

で、この人何を言ってるんだろうとわがが分かりませんでした。すると、半年後にN響フルート奏者の甲斐雅之さんから電話がかかってきて、「この日、空いていますか？」と聞かれ「はい」と答え、わけもわからずN響に乗せてもらいました。2年たったころ、N響の首席の募集がありました。オーディションがどういものかも知らなかったのですが、2年前にお世話になったから受けてみようとなり、受けてみたら最後まで進むことができました。その時は甲斐さんが首席になつていて、「野津君、良かったから呼んでみるか」と声をかけてくれました。



夏の合宿で三瓶（さんべ）山  
左端が野津さん

## スコアを徹底的に読みこんで



### プロフィール

1982年島根県松江市出身。島根大学教育学部を卒業。卒業後9年間同大学附属中学校特別支援学級にて教鞭をとる。その間、第12回びわ湖国際フルートコンクール Gary Schocker 賞、第21回宝塚ベガ音楽コンクール木管部門第3位、第26回日本管打楽器コンクールフルート部門第3位、第23回日本木管コンクールフルート部門第2位。第18回日本フルートコンベンションコンクールピッコロ部門第2位。2012年11月から2015年5月までNHK交響楽団にアカデミー生として在籍。フルートを田中さち、野坂知子、伊藤公一、神田寛明、甲斐雅之の各氏に師事。ピッコロを菅原潤氏に師事。2015年10月1日、札幌交響楽団に入団。副首席奏者を務める。

つしやうだったので、ずうっと習っていらした。音楽のボランティアで

ランティアで行っていた特別支援学校の先生に「野津君、ちよつこの学校で非常勤講師してみない？」と言われ、それから

た。でも「教員をしているので」と言うところ、N響のアカデミー生という立場があるからそこに通わない？と言われて、そんな流れでN響に行くことになりました。教師をやっているからアカデミーにもいさせてもらって、本当にありがたかったですね。

しかし、時がたつにつれて神田寛明さんや菅原潤さんにお前、なんで東京に出ねえんだよ」と叱られて、それからは東京で暮らしました。東京では、多くはないですが群響、シテイフィル、大フィルなど何か所かに行かせてもらいました。東京の音大にいたいろいろな仕事のきつかけを掴む機会があるんですけど、僕には何もなかったのです。そんな時に神田さんが群響の人に、「野津君、使ってくれ」と頭を下げてくださったのでオケに乗せてもらったりしました。本当に感謝ですね。卒業して9年、東京で1年になります。

## ♪ 札幌に来てまだ2年です

札幌のオーデイションに受かったのは2015年、半年の試用期間があったので、正式に楽員になったのは2015年10月1日からです。まだ2年しかたっていないのに「野津くん、札幌に来て4、5年になるよね」とかつてよく言われます。札幌は湿気がなくてカラッとしますね、夏は特に。洗濯物がよく乾くなあと思います。山陰なんてずうっと雨、梅雨の時なんかは全然晴れません。

車の免許はありますが、札幌では車を持っていません。通勤はいつも電車とバスです。地方へ行くときは高橋聖純さんに乗せてもらっています。札幌は皆さん、温かい感じがしますね。スタッフの人とも親しくさせていただき、いろいろお話ができて楽しいです。

札幌ではレッスンの生徒は取っ付いて、今はオーケストラの仕事だけ。いろいろ勉強しないとイケない時期ですので、フリーの方が札幌の仕事に集中できていいかなと思っっています。島根にはありがたいことに、前からの生徒さんが今でもやめずに帰りを待っていてくれるので、「帰るよ」と言ったらわざわざ来てくれます。まあ、赤字ですけれども、生徒さんと札幌の話をしたり一緒にフルートを吹いたりするので、どれだけ心が救われる

か。先日も名曲シリーズの演奏が終わって向こうへ飛んで、日曜日には島根にいて、月曜日にごちちに帰ってきて、火曜日には札幌の練習、そ

## ♪ ピッコロも広めたい

私にとつてはフルートが一番ですね。日々吹いているという課題が出てきて、それを解決しようと思う。そうするとこれはもう一生かかって足りないぞって思うんです。副首席なので、2番も吹くし1番も吹くし、今はピッコロも吹きたい。部屋では夜の11時まで吹けるので、ピッコロをバンバン吹いて周りにご迷惑をかけています。

地元ではリサイタルをやりましたが、札幌でもいざれでたらなあと思っっています。このあいだ松江でやったときは、前半がフルート、後半はピッコロでプログラムを組みました。ピッコロのソロをやる人は少ないので、もつとそういうコンサートができたらなと思います。皆さんはあまり知らないと思いますが、ピッコロの曲っているいろいろあるんですよ。ピッコロと言ったらヴィヴァルディのピッコロコンチェルトぐらいですかね。演奏される曲が限られているのは「日本ピッコロ協会」(架空の団体です)としてもあまりよろしくないことですので、(笑)新しい曲を見つけて、紹介し

ういうことをよくやっています。島根、出雲大社は面白いですよ。参道がちよつと下がっていて、出雲の神にへりくだれという意味なんですね。文献を読むと面白い。

先日特別業務で、モーツアルトのフルート四重奏曲とオーボエ四重奏曲をピッコロで演奏する機会がありました。いざれロビーコンサート

## ♪ チーム聖純!

今、フルートセクション(チーム聖純)は札幌のスーパースターであり、日本フルート界の兄貴こと高橋聖純さんと部下の野津の2人です。昨年は道内、都内のフルート吹きの皆さんにお力添えを頂き、日々公演を行っていました。この会報が皆さんの手元に届く頃には、新しいフルート吹きがチーム聖純に加わっているかな?

私の上司であらせられる高橋聖純さんは、部下の私が言葉にするの

トでもピッコロを取り上げてお客様にもピッコロの良さを知っていただきたいです。

楽器にさわる時間がどうしても必要ですから、暇があればずうっと吹いています。それ以外の時間には、最近週に3回ぐらいジョギングをしています。練習が終わって、走って、風呂に入って、飯食って……こんな感じなので夕食(夜食?)はいつも11時頃になってしまいいす。遅すぎて健康によくないですね。

が畏れ多いほど素晴らしいフルート吹きです。何が素晴らしいかって、まずはあの美音。あんなにも肉体派ですから音もマッチョなのかと思いきや、実に繊細で甘く魅力的な音です。隣で聴くと、「ああ、聖純さん!」と身も心もろけそうになります(大丈夫、僕らはそういう関係ではありません!)

次に素晴らしいのが演奏における彼のドライブینگテクニクです。オーケストラの演奏にはいろいろとハブニングがつきもので楽器間でのタイミングのズレ、音程のズレ、歌い方のズレなど練習では想像もつかなかったハブニングが起きること

があります。そういう時にどうすれば演奏がスムーズにいくか、その対処法は一概にこれというものはありませんし、各楽器によってもその状況によっても違うはず。しかし、彼のそのハブニングへの対応が実に素晴らしいのです。「野津くん、ここはこうやって吹いてもらってよい? そうするとバランス良く聴こえるんだ!」「こうやってフレーズをとったほうが弦楽器と合うんじゃないかな?」等々、毎回の確なアドバイスを頂きます。ですが、彼の真骨頂は「咄嗟」の判断を求められる時なのです。演奏中「ん? なんか変だ。」と思った瞬間に彼は回りの楽器陣を瞬時に先導したり、中庸なポジションをとったりと実に巧みなドライブینگテクニクを發揮します。「いやあ、そんなの適当だよ」と笑いながらその時のことを話すのですが、その判断を間違えることはほぼありません。野生の勘とでもいうのでしょうか。

彼は旅の間でも、カーナビを使用しません。「確かこの先にセイコマがあつて、そのあたりに会場が……」と進むと間違いなく会場があつたりします(初めていく会場でもこのような現象が起ります)。私のような凡人にとつては、彼は天才に他なりません。もちろん彼だつてたくさん苦勞と努力をしてきて、今のポジションがあるはず。そのような天才をどう支えるか……

勘が鋭い彼に対して、私は極めて鈍感。ですから演奏中にハブニングが起こりそうになった時も予見するのが遅いし、彼のようにハンドルを切つてみても、違った方向に行つてしまふことがしばしばあります。そういう時に彼は何が原因でそのようなハブニングが起きたかを説明できます。ですが私はスコアを見直し分析してからでないといふと説明できません。

私は昔、自分が鈍感であることがとても嫌でした。しかし、それは仕方のないことであると彼と仕事をするうちに受け入れられるようになってきました。なぜなら天才には叶わないと思えるようになったからです。ではそういう天才を相手に如何に仕事をするか。それは彼以上に練習をし、スコアを徹底的に読み込み、多くの音源を聴き、自ら進んでいくしか方法はないのです。

私が時間をかけて勉強することにより、彼を支えることができ、その日の彼の演奏が上手に行くことが大きな喜びです。これからも彼ははじめ、多くのセクションの一助となるよう時間をかけじっくり勉強し、楽員の皆さんに喜んでいただける演奏を目指して努力していこうと思っっています。「ああ私って不器用だよなあ……」と嘲笑する毎日です。

担当/井上・中居・村山・塚田



野津さん 高橋さん photo A.T

## 札幌の楽器を運んで10年

札幌通運 竹永力さんに聞く

11月25日(土)、この日キタラでは「音楽日和」札幌公演とJAF会員のための音楽会」が開催されることになっていました。午後二時の開演に向けて、札幌の大きな楽器は芸森の練習場からキタラへ朝八時に運び込まれました。楽器の搬入がすべて終わったあと、私達は札幌通運の竹永力(たけながつとむ)さんにお話を聞くことができました。

### トラックは特別仕様

札幌の楽器を専門に運ぶトラックは札幌通運の4トン車。ジュラルミンでできた荷台の両側面にはステージ上で演奏する札幌の姿が大写しにされており、さらにそこには



札幌専用のトラック



竹永力さん

ん。「いない」と言うよりは、「このトラックにはほかの人は乗せない」ことになっているらしいのです。札幌の楽器を安全に正確に間違いない運ぶことはもとより、車両事故、楽器の盗難、紛失等に至るまですべての責任を竹永さんが一人で負っているのです。

札幌は11月に東北四県の小中学校8校で巡回公演を行いました。上旬は宮城県、一度札幌に帰って来て、中旬には青森県、秋田県、岩手県に出かけたのですが、この時竹永さんは普段にも増して「大忙し」だったそうです。二週間の間に苫小牧・八戸間、苫小牧・仙台間をフェリーで往復し、本州に上陸してからは四県を股に掛けて走り回ったことになりました。毎年開催されている東京公演の時は大洗に、大阪や四国で公演がある時には舞鶴に上陸して、その後は竹永さんが黙々と一人で運びます。時には楽器だけをフェリーに載せて、自分は飛行機で先回りして楽器を港で待つこともあるそうです。

「札幌交響楽団」と大書してあります。このトラックは楽器を運ぶために特別仕様になっていて、荷台の内部は空調によって温度が調節されています。大きな楽器ケースを固定するラッシングバーやベルト、厚いマットのようなものがいくつも用意されています。内壁にはカーペットが張られていて、防犯カメラまでも取り付けられています。また、楽器への振動を和らげるために特別の「エアサスペンション」になっているとのことでした。

このトラックをこれまた専門に運転しているのが竹永力さんです。運転席は常に一人で、助手はいませ

型の段ボール箱も含まれていました。

竹永さんのトラックはキタラの楽器搬入口にお尻をピタリとつけて止まっています。トラックの荷台の高さはキタラの搬入口の高さと同じなのです。このトラックはキタラに合わせて作られたものでもあったのです。

### 搬入後も車中で待機

楽器の積み方、積む順序については上司に当たる前任者から伝授されたそうです。そのほかのことは札幌のスタッフと打ち合わせをしながら搬入、搬入の作業を行なっています。演奏会場に着いて楽屋に楽器を入れ終わったからといって、竹永さんがフリーになるわけではありません。演奏会が終わるまでトラックの中でひたすら待つのです。何かあったらすぐに動けるように待機しているのです。竹永さんが札幌の楽器運搬の仕事を引き継いだとき、上司から「最悪のことが起こった場合、最善のことが出来るように」と



お尻をピタリと搬入口に

言われていたそうです。

大型トラックを運転していた竹永さんがこの楽器運搬の仕事をするようになったきっかけは、足を痛めていた上司の代わりにこのトラックで楽器を運んだことでした。上司の代わりに仕方なく運転して行ったのに、会場に着くと札幌のスタッフからは拍手で迎えられ、上司からはすぐに「明日からは正式に札幌の仕事をやれ」と言われたそうです。竹永さんにとっては「鳩が豆鉄砲を食った」感じで、驚くばかりだったそうです。楽器にも音楽にも興味があつた竹永さんは、その後楽器を運びながら楽器の名前を声に出して覚えたり、楽屋で札幌の演奏を聴いたりしているうちにだんだん音楽が好きになっていったということでした。

以前には、この楽器運搬の仕事は文字どおり荷が重く責任も重大な



演奏終了後の積込作業

ので、いつやめようかと思っていたこともあるそうです。そんな時、ある地方公演で演奏会終了後おばあさんが「ありがと、ありがと。」とトラックに向って手を合わせている姿を見て、「僕が運転して来なかったらこの演奏会は出来なかつたんだ」と思って、心がガラッと変わったそうです。それ以来この仕事をつらい、大変だと思つたことはないそうです。

### 楽器は「家族」

竹永さんがこの楽器運搬の仕事を引き継いで10年になるそうですが、「仕事にはまだ慣れていない、と言うよりは慣れないようにしている」とのことでした。さらに荷台に積んでいるものも楽器とは思わずに、「家族」と思っているということでした。荷台に積んでいる楽器を「家族」と呼び、一番気をつけていることは「札幌の楽器を安全に正確に間違いなく運ぶこと」と言う竹永さんに楽器を運ぶことへの気概と誇り、そして楽器への愛情を強く感じました。

竹永さんのような裏方さんには、ホルルの拍手喝采は届きません。しかし裏方さんの仕事に札幌が支えられていなければ、私達の耳にすばらしい音楽もまた届かないのです。

担当/井上・中居・村山

# JOFCC総会 金沢大会

## 金沢らしい天候の中で

11月18日に金沢で第11回日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOFCC）総会が開催されました。各地から68名が集まり、石川県立音楽堂でオーケストラ・アンサンブル金沢の定期公演を聴いて、総会・分科会・懇親会で交流を深めました。「札幌くらぶ」からは上田会長はじめ18名が参加しました。



六つのテーブルに分かれ各地の情報と意見を交換

二つ目の日程はJOFC総会です。総会では上田JOFC会長に始まり、県立ということもあり県庁の県民文化スポーツ部長、金沢市の文化スポーツ局長、そして石川県立

音楽堂楽友会の代表幹事の方から挨拶がありました。議事では新たに九州交響楽団を応援している九響倶楽部が加盟しました。これでJOFCは全8団体（さらに都響倶楽部はオブザーバー参加、北は北海道から南は九州までとなりました。数ある挨拶の後に分科会に入り、六つの班に分かれて財務・広報・会員拡大をテーマに討議しました。その六つの班のうち四つの班のテーマは会員拡大で、どこも同じような問題を抱えていると思われました。



選抜メンバーの弦楽四重奏

音楽堂楽友会の代表幹事の方から挨拶がありました。議事では新たに九州交響楽団を応援している九響倶楽部が加盟しました。これでJOFCは全8団体（さらに都響倶楽部はオブザーバー参加、北は北海道から南は九州までとなりました。数ある挨拶の後に分科会に入り、六つの班に分かれて財務・広報・会員拡大をテーマに討議しました。その六つの班のうち四つの班のテーマは会員拡大で、どこも同じような問題を抱えていると思われました。



全国から集まった「オケファン」総勢68名

以来アルバイトをしながら札幌を聴けるという二重の喜びを手にしたのでした。この頃、練習場が大丸藤井ビルから青少年会館に移転したり、少し遡りますが、定期演奏会の会場が市民会館から厚生年金

私の思い出



「札幌に少しでも恩返しを」

て、これはアルバイトに違いないと思ひ、さつそくそこに加えてもらうことにしたのです。この時出会ったのが初代ステージマネージャーの海藤正吾氏です。海藤氏とは本番終了後にアルバイト仲間と「今日の反省」と称してよく飲み会をしています。

約社員に復帰しました。今振り返るとよく立場が二転三転したものだと思えます。

元ステージスタッフ／本松了英

## 札幌の思い出

### ステージ・スタッフ退職に際して

私は札幌創立20周年の一年後、一か月に2、3回程度のいわゆるボウヤまたは裏方として札幌のステージアルバイトを始めました。当時は定期会員でしたが、貧乏学生だったため定期会員を継続することがだんだん困難になっていきました。そんな時、定期演奏会終了後にステージで楽器を片付けている一団を見て、これはアルバイトに違いないと思ひ、さつそくそこに加えてもらうことにしたのです。この時出会ったのが初代ステージマネージャーの海藤正吾氏です。海藤氏とは本番終了後にアルバイト仲間と「今日の反省」と称してよく飲み会をしています。

は、金沢直行班、名古屋経由班、単独行等で現地集合でした。金沢はルート選択が難しい所です。今回、到着日の金沢は雨、「弁当忘れても傘忘れるな！」の当地の格言を正しく現地で実感したツアーでした。

### 会員／塚田総

の1つに海外の演奏会があります。2回の東南アジアツアー、イギリス、ヨーロッパ、韓国、台湾など最初のアメリカ以外はすべて参加させて頂いています。どの国もホールの搬入口は作りが悪く、楽器運搬はなかなかスムーズにはいきません。如何にキタラがすばらしいか帰って来てから再認識しました。それでも海外ツアー、特にヨーロッパで札幌は感動的な演奏をしたと思えます。仕事とはいえ毎回聴いていますが、相当興奮したのを覚えています。もう一つの思い出はキタラをフランチャイズにした事です。札幌での演奏会はほぼキタラで行います。クラシック専用ホールが出来たことにより音楽環境は飛躍的に向上し、演奏家、聴衆の皆様が音楽に没頭できる雰囲気になったことは特筆すべきことだと思います。

ありがとうございました

ヴァイオリン奏者 横井慎吾さん 12月退団



ホルン奏者 菅野猛さん 10月退団



「札幌くらぶの皆さんののおかげでファンも増え  
たし、若いメンバーのコンサートの応援もして下  
さっているとのこと、本当に感謝しています。」

「札幌くらぶは大切な応援団でした。支え  
られて幸せに演奏できたと思います。これ  
からくらぶに入って応援団に回るかも！」

## 深夜放送の想い出

私は中学高校時代、地方に住んで  
いたので、クラシック音楽はラジオ  
放送でしか聴けなかった。「音楽の  
泉」は今も放送されている超長寿番  
組であるが、「NHKシンフォニー  
ホール」「青少年音楽会」等はNH  
Kで、夜十一時以降の深夜放送は民  
放で毎日聴いていた。

番組のタイトルはうる覚えであ  
るが「夜の名曲」と「名曲アワー」  
だったろうか、それぞれテーマ曲  
が流れてから始まるのだが、その曲  
名も暫くの間、分からなかった。そ  
の後、一曲はブリテンの歌劇「ピー  
ター・グライムス」の「四つの海の  
間奏曲」であることが分かったが、  
もう一曲は分からないまま毎日番  
組を聴いていた。それは憧れに満ち  
た優雅なメロディで始まる、一度聴  
いたら忘れられない曲だった。その  
曲がヴァイオリンの「ヴァイオリン

協奏曲第22番だと分かったのは  
随分後になってからだった。毎日冒  
頭のオーケストラの部分だけを聴  
いて、ヴァイオリン・ソロの部分は  
聴いていなかったもので、この曲が協  
奏曲だったとは思ひもしなかった。

この曲についてある高名な評論  
家が「人生の最後に一度聴く曲だ」と  
著書に書いたため、当時この曲が  
録音された唯一のレコードは人気  
になり、中古市場で一枚十万元以上  
すると言われていた。もちろん私に  
は買えるはずもなく、全曲をなか  
か聴けなかった。社会人になって  
からNHKの朝の番組にリクエス  
トをして、放送もされたのだが、勤  
務時間の関係でヴァイオリンのソ  
ロが始まる前までしか聴けなかつ  
た。

会員/稲村靖彦

年以上も経ってからだった。その後  
も生演奏でも放送でも聴いたこと  
がない。この曲は有名なヴァイオリ  
ン奏者(オISTRAフ、グリュミオ  
ー、スターン、アッカルド、ポベス  
コ)が何人も録音しているし、かの  
ブラームスもこの曲を愛し、自分の  
協奏曲の参考にしたとも言われて  
いる名曲である。

## 訃報

打楽器奏者 藤原靖久さん

(享年56歳)

2017年12月29日早朝  
にお亡くなりになりました。

1992年打楽器副首席奏  
者として入団し、11月下旬ま  
で演奏されていました。

ご冥福をお祈りいたします。

## 編集後記

▼ディヴェルティメントK2  
51は僕の大好きな作品。  
これを聴くと朝のコーヒー  
の味がひと際さわわたる。  
モーツァルト特有の、満ち  
足りた幸福感に浮かび上が  
るオーボエの切ない表情が  
たまらない。パーメルト氏、  
そのうち取り上げてくれな  
いかな。(村岡)

▼12月定期で、J・S・バッ  
ハのクリスマス・オラトリ  
オを聴きました。初めてで  
したが、とてもこの時期に  
ふさわしいと思います。こ  
の後はクリスマスモードか  
ら年末年始に突入。外は寒  
いですが、ロマンチックな  
コンサートを楽しみましよ  
う！(神)

▼JOFCC金沢大会で「地下  
鉄を降りて公園の中を歩い  
ていくと、雪景色の中に浮  
かび上がってくるギターは  
とても幻想的。是非一度冬  
にも行ってみたい！」と、  
周りの人たちにお薦めして  
いたのは、東京在住の札幌  
ファンの方。私が出る幕な  
しでした。(み)

文化庁指定事業、平成23年度文化庁文化芸術振興費補助金  
新進演奏家育成プロジェクト  
オーケストラ・シリーズ 第42回 札幌

1曲目 坂東 由美  
2曲目 菅野 猛  
3曲目 菅野 猛  
4曲目 菅野 猛  
5曲目 菅野 猛  
6曲目 菅野 猛

2月11日(日・祝)  
開演 15時00分(開演14時30分)  
チケット 全席 2500円  
札幌コンサートホール Kitara 大ホール

指揮 梶山 義夫  
打楽器 入川 奨

オーディションに合格した若手の音楽家  
が札幌と共演する演奏会、僕はマリンバ  
でクレストン作曲「コンチェルティーノ」  
を演奏致します。普段はティンパニなの  
で、マリンバを演奏する姿は非常に稀で  
す！是非足をお運び下さい！

札幌首席ティンパニ・打楽器奏者 入川奨

2月11日(日・祝) 15:00 開演  
Kitara 大ホール  
全席自由席 2500円

## スタッフの活動報告

10月25日(水)

会報「札幌くらぶ」80号発送  
第6回運営会議

10月28日(土)

「札幌市内中学校吹奏楽部招待事業」

宮の森中32名 上野幌中17名

11月18日(土)

日本プロオーケストラファン

クラブ協議会(JOFC)金沢大会

11月24日(金)

第7回運営会議

12月(土)

「札幌市内中学校吹奏楽部招待事業」

柏中33名 星置中41名

12月14日(木)

第8回運営会議